

氏名	志 茂 久 順
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 268 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和43年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学 位 論 文 題 目	継代中病型変異をなせるマウス白血病ウイルスの交叉中和実験に関する研究 第1報 海狸脳通過による C₅₈ 及び AKR マウス白血病ウイルスの原株及び変異株の分離固定実験 第2報 海狸脳通過により分離固定せる C₅₈ 及び AKR マウス白血病ウイルスの同系における原株と変異株の交叉中和実験 第3報 AKR マウス白血病ウイルスの抗 C₅₈ 白血病ウイルス血清による交叉中和実験
論 文 審 査 委 員	教授 平 木 潔 教授 小 坂 淳 夫 教授 小 川 勝 士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

発癌機構に関する研究分野の中で近年における最も著しい進展は人及び動物癌におけるウイルスの関与についての活発な研究であり、マウス白血病の分野に於いても1951年 Gross の劃期的な実験に始まり、Stewart, Friend, Moloney, Rauscher 等により拡大発展したウイルス性白血病の研究により Leukemogenesis の研究対象は漸次ウイルスに向けられている。

時あたかも教室においては白血病好発系である C₅₈ 並びに AKR 系マウスの自然発生淋巴球性白血病の無細胞濾液による継代中、何れにも骨髓性白血病への変異が無条件下に認められるという極めて稀な現象を観察した。この病型変異の機転を解明するに当り、著者は免疫学的方法を以てするのが最有力と考え、1951年来本学浜崎によって行なわれている異種動物脳通過による腫瘍ウイルスの分離固定法、及び一般感染性ウイルスの中和実験法をマウス白血病の分野に導入し、C₅₈ 及び AKR 系マウス淋巴球性白血病株より得られた原株ウイルスと骨髓性白血病株より得られた変異株ウイルスの4株ウイルス間相互の免疫血清学的関係について検討し、その結果両系共に原株及び変異株ウイルスは免疫血清学的に近縁関係にある別個のウイルスであり、C₅₈ 及び AKR ウイルス相互間には可成り離れた抗原性のあることを認め、従って病型変異は元来混在する両ウイルスの組織親和性の優劣の変

化によるものと推論した。

(昭和42年2月29日発行，岡山医学会雑誌に 第80巻1.2号掲載予定)

論文審査の結果の要旨

本研究はマウスウイルス性白血病の研究過程に起った病型変異の現像を捉え，之を免疫血清学的に研究したもので，従来困難であったマウス白血病ウイルスの分離，固定に特異な方法を導入したものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は，医学博士の学位を得る資格があると認める。